

2015年度京都造形芸術大学芸術学部通信教育部入学式 式辞

2015年4月12日（日曜日）

尾池和夫

京都造形芸術大学芸術学部通信教育部に入学、あるいは編入学された1391名の皆さん、大学院芸術研究科修士課程（通信教育）に入学された79名の皆さん、また科目等履修生など94名の皆さん、ご入学、まことにおめでとうございます。

列席の瓜生山学園の役員、副学長、学部長、研究科長、すべての教職員とともに、ご入学を心からお祝いいたします。新入生の皆さんは、日本の各地から京都造形芸術大学の通信教育部を選んでくださった方々です。まず、そのことに深く感謝いたします。これからこの瓜生山のキャンパスで、あるいは神宮外苑のキャンパスで、また大阪サテライトキャンパスでスクーリングに参加し、そして蓼科高原の康耀堂美術館で実習される機会を、大いに愉しんでいただき、学習に、あるいは制作に、力一杯とり組んでいただきたいと思います。

今日の入学式を迎えるまでの間、皆さんは、多くの経験を積み上げて来られ、さまざまな分野で技術を磨き、また芸術活動にもとり組んで来られた方も多いと思います。それらに敬意を表し、また、ご入学を支援されるご家族の皆さまにも感謝しつつ、心からお祝い申し上げたいと思います。

この式典が行われている瓜生山のキャンパスには、「藝術立国之碑」が建っており、そこに建学の理念が、南インド産の黒御影に刻まれています。この理念のもとに、皆さんが入学された通信教育部では今、皆さんを含め、18歳から95歳まで、6171名の学生が学習に、また制作に励んでいます。

通信教育部では、2017年度に改革を想定して、その準備をしています。去る3月14日の卒業式では、大学院芸術研究科73名の方が修了し、学部を462名の方が卒業されました。皆さんの先輩である修士は、これで469名、学士は5246名になり、各地で活躍しておられます。通信教育部サイバーキャンパスのウェブサイトには、2004年度からの卒業作品や論文の要約があります。ぜひご覧いただき、大いに先輩たちの成果に挑戦していただきたいと思います。

今日の入学式に参加された方は、この機会に1300年の歴史のある古都京都を散策してみたいと思います。あるいはスクーリングで来られたときにも、さまざまな古都の文化に触れていただきたいと思います。皆さんは大学生ですから、学割や優待の恩恵を受けることができます。多くの美術館や博物館を訪れていただきたく存じます。都が置かれたにもかかわらず、京都には城壁がないという世界的に見て珍しい特徴があります。これは活断層性盆地にあるということに由来します。盆地には、大量の地下水あって、茶の湯が生まれ、和菓子や酒が生み出されました。西山の活断層破碎帯には、孟宗竹が植えられて補強され、その竹林の筍が名産となりました。

西山では竹藪に赤土を入れて手入れします。赤土が酸化を防ぎ、白いやわらかな筍が育ちます。土がもり上がってきたら顔を出さないうちに筍を掘り出して、今それが出回っています。筍は同じ根の竹のクローンで、節の数は根のつながった竹では皆同じです。孟宗竹は50年ほどに1度は花を咲かせて遺伝子を修復します。

筍の栄養価はたいへん高く、朝掘りを使って、木の芽和え、のこ造り、若竹汁、じきた

け、田楽、焼竹、天ぷら、酢の物などを愉しむことができます。

このように、筍一つをとってみても、その仕組みと歴史を学び、味を体験して、はじめて創作に取りかかるというような過程が重要であると私は思っています。そして自然をしっかり見つめ、自然を超える芸術作品が、皆さんの手で生みだされることを期待しています。

芸術は自然を模倣すると、アリストテレスは言いましたが、一方で、芸術は自然を模倣するのではなく、自然を表現することであると、バルザックは言っています。自然を超越して自然を表現すること、それこそが人を感動させる作品を生み出すのだと私は思っています。

皆さんのご健康を祈り、大いなるご活躍を期待して、私の式辞といたします。あらためて、ご入学おめでとうございます。

ありがとうございました。